

開花結實約爛生成育

毎日現代書道

片山竜筆選

毎日書道展審査委員

—漢字

川井章弘(岡山市)

釈文「開花結實

約爛生成化育」

(意味)花が開き、実を結ぶ万生のきらびやかさを生み育てる、生命の力。自然界における万生(いんげん)の法則のひとつ。

字形などスタイルの

源は、古代中国後漢時

代前期に作られたとさ

れる「開通褒斜道刻石」

にあるが、意図の逞し

い思慮のある作品だと

思う。大小のおさま

具合、余白への関心も

かなり良い。意欲に支

えられた隙のない作品

だけに、一応の見応え

は持っている。空間に

反響する音のような

澄み切った高い線性

と、字の内面から湧い

てくる心韻の美が貴

い。自然な流れも加え、

一貫する樂趣も出てい

る。

また躍動したよい線

で、ムーブメント感迫

ってくるものがある。

貫通美もあり、全幅の

融け合いがいかにもよ

い塩梅だ。融正で清爽

の気を持ち合わせてい

る。澄んだ心境で無駄

を省いて要点をつか

み、ぐんぐん筋を立て

て筆を進めているのが

よく分かる。

軽妙で変化に富み、

小味が出ているところ

もおもしろい。何物に

もとられない自由な

気持ちで、淡墨で一気

呵成に「やっつけた」と

ころに一つのリズムが

でき、このような作風

を成したと思う。親し

みやすくて嫌味もな

い。

今回の作品について

筆者は「開通褒斜道刻

石」のような細い線に

よる、瀟洒な趣を狙い
ました。萎縮しないよ
うに大きく筆を動かす
ことを心がけました」
と述べている。

本人のこの言葉から
分かるように、よく「開
通褒斜道刻石」の特色
をつかみ、その自由な
気持ちを作品に生かし
た力量はさすがと感心
する。ただこの作品の
場合は、印だけより

落款を書き入れた方が
よいと思った。なぜな
ら、作品は落款ととも
に「生きる」ものだけ
ら。

◇
【開通褒斜道刻石】の
特色】
「開通褒斜道刻石」と
は、現在の中国陝西省
褒斜県北方の岩壁に刻
まれた摩崖碑です。交
通の要所で長らく不通

書は見れば見るほど、
刻まれた岩や石などの
自然と溶け合った偉容
を垣間見ることがも
でき、大きな広がりも感
じることができます。

のと言われています。
波勢のない隷書で、字
粒の不ぞろいや字形の
長短、広狭のまちまち
なのが特徴です。

この刻石の線は、細
いが屈託なくよく伸び
て、そのためスカッ
とした爽やかな味を持
っていると思います。

古代の中国人の平和
的なムードに浸ってい
る生活が、あふれた線
条から訴えてかけてく
るようです。

天衣無縫とも思える
悠々たる風趣には、驚
かざるを得ない程の書
格が内蔵されています。
素朴で飄逸なこの